

## 独自分析レポート 建設業関連 6 業種における 2021 年 3 月期決算と 22 年 3 月期予想から見る市場動向

### 【本件のポイント】

- ・6 業種別主要上場企業各 10 社の 2021 年 3 月期決算から見る建設市場動向をまとめた
- ・6 業種中 5 業種で売上高は前期割れで建設関連業界にとって厳しい決算
- ・国土強靱化計画等を中心とした公共の土木工事が底堅く推移したことから、土木工事業のみが好調な決算

### <総合工事業>

#### ■ 9 社が減収減益、主要 10 社合計で純利益 15.2%減と厳しい決算

21 年 3 月期の決算は 10 社中 9 社が減収減益と厳しい決算になりました（図表①）。ゼネコン大手 4 社のうち鹿島建設を除く 3 社は売上高、純利益ともに前期比で 2 桁減となっています。主要 10 社合計でも売上高が同 9.8%減、営業利益は同 15.2%減、経常利益は同 15.7%減、純利益は同 15.2%減となっており、東京オリンピック・パラリンピック関連の需要が一段落し建設市場が端境期を迎えたことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、総合工事業の業績は低迷しました。

【図表①】 総合工事業主要 10 社の 2021 年 3 月期（連結）の実績

企業名	2021年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	
鹿島建設	1,907,176	-5.2%	127,298	-3.6%	139,729	-4.7%	98,522	-4.6%	減収減益
大林組	1,766,893	-14.8%	123,161	-19.4%	128,784	-19.0%	98,780	-12.7%	減収減益
大成建設	1,480,141	-15.5%	130,516	-22.2%	135,937	-21.6%	92,554	-24.2%	減収減益
清水建設	1,456,473	-14.2%	100,151	-25.2%	105,465	-23.6%	77,176	-22.0%	減収減益
長谷工コーポレーション	809,438	-4.3%	72,909	-15.1%	71,832	-15.7%	48,258	-19.4%	減収減益
前田建設工業	678,059	39.0%	46,343	36.1%	45,665	24.8%	23,275	62.3%	増収増益
戸田建設	507,134	-2.2%	27,697	-21.4%	30,363	-20.7%	19,735	-23.6%	減収減益
五洋建設	471,058	-17.9%	30,460	-8.1%	30,545	-6.1%	20,993	-10.1%	減収減益
三井住友建設	421,619	-10.7%	15,584	-37.1%	13,063	-45.3%	8,743	-43.8%	減収減益
フジタ(単体)	379,240	-27.2%	12,206	23.5%	8,866	3.6%	5,579	-7.2%	減収減益
合計	9,877,231	-9.8%	686,325	-15.2%	710,249	-15.7%	493,615	-15.2%	減収減益

出所：各社の 2021 年 3 月期決算短信より作成

\*フジタについては非上場のため同社より取得した決算資料より作成

#### ■ 10 社合計の売上高予想は 6.5%増となるも純利益は 18.5%減と減益予想

22 年 3 月期の業績予想は 10 社すべてが増収としており、売上高は底堅く推移すると考えられています（図表②）。ただし、営業利益、経常利益、純利益は 6 社が減少すると予想しています。10 社合計でも営業利益は前期比 16.2%減、経常利益は同 17.4%減、純利益は同 18.5%減となっており、厳しい受注環境を背景に利益率は低下するとの見方がされています。

【図表② 総合工事業主要 10 社の 2022 年 3 月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
鹿島建設	2,010,000	5.4%	104,000	-18.3%	114,000	-18.4%	80,000	-18.8%
大林組	1,910,000	8.1%	95,000	-22.9%	98,500	-23.5%	71,500	-27.6%
大成建設	1,640,000	10.8%	90,000	-31.0%	93,000	-31.6%	63,000	-31.9%
清水建設	1,550,000	6.4%	76,500	-23.6%	77,000	-27.0%	58,000	-24.8%
長谷エコーポレーション	850,000	5.0%	78,000	7.0%	75,000	4.4%	51,000	5.7%
前田建設工業	714,400	5.4%	46,700	0.8%	46,000	0.7%	23,500	1.0%
戸田建設	515,000	1.6%	23,600	-14.8%	25,700	-15.4%	16,900	-14.4%
五洋建設	491,000	4.2%	29,000	-4.8%	28,500	-6.7%	20,000	-4.7%
三井住友建設	432,000	2.5%	18,500	18.7%	16,000	22.5%	10,000	14.4%
フジタ(単体)	405,000	6.8%	14,100	15.5%	12,700	43.2%	8,500	52.4%
合計	10,517,400	6.5%	575,400	-16.2%	586,400	-17.4%	402,400	-18.5%

\*「収益認識に関する会計基準」などを適用するため業績予想の対前期増減率を公表していない三井住友不動産についても単純計算で対前期増減率を記載している

## <土木工事業>

### ■ 6 社が増益、10 社合計で売上高 0.2%増、純利益 13.2%増と好調な決算

21 年 3 月期の決算は 6 社が増益、うち 4 社が増収増益となりました（図表③）。10 社合計で売上高が前期比 0.2%増、営業利益が同 17.7%増、経常利益が同 19.1%増、純利益が同 13.2%増となっており、国土強靱化計画等を中心とした公共関連の土木工事への投資が堅調であることを背景に、前期に引き続いて好調な決算となっています。

【図表③ 土木工事業主要 10 社の 2021 年 3 月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
NIPPO	445,720	3.9%	44,697	23.4%	46,791	22.4%	31,068	31.7%	増収増益
前田道路	234,612	-1.3%	20,738	5.9%	21,078	6.0%	16,750	-11.0%	減収減益
東亜建設工業	189,712	-0.3%	8,714	9.5%	9,247	21.6%	6,859	37.0%	減収増益
東洋建設	172,976	-1.0%	14,259	53.8%	14,103	53.8%	9,176	59.1%	減収増益
大豊建設	161,697	-0.7%	9,066	6.5%	9,420	9.8%	6,262	-5.8%	減収減益
日本道路	157,796	6.1%	10,776	43.4%	11,293	43.8%	7,598	11.9%	増収増益
飛鳥建設	117,295	-13.0%	3,995	-49.1%	3,673	-50.2%	2,451	-52.0%	減収減益
ピーエス三菱	117,219	10.9%	8,396	72.0%	8,422	72.0%	5,592	74.0%	増収増益
川田テクノロジーズ	115,545	-9.1%	5,565	-17.7%	8,048	-5.8%	6,340	-1.7%	減収減益
東亜道路工業	111,801	2.5%	7,165	50.8%	7,258	49.1%	4,697	14.1%	増収増益
合計	1,824,373	0.2%	133,371	17.7%	139,333	19.1%	96,793	13.2%	増収増益

出所：各社の 2021 年 3 月期決算短信より作成

### ■ 10 社合計の売上高予想は 2.9%増となるも純利益は 21.0%減と大幅な減益予想

22 年 3 月期の業績予想は 6 社が増収となっています（図表④）。10 社合計でも前期比 2.9%増となっており、好調な公共事業が底支えする構造で売上高は堅調に推移すると予想されています。ただし、営業利益は 10 社合計で前期比 15.0%減、経常利益は同 17.0%減、純利益は同 21.0%減となっており、厳しい受注環境を背景に利益率は低下するとの見方がなされています。

【図表④ 土木工事業主要 10 社の 2022 年 3 月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
NIPPO	465,000	4.3%	42,000	-6.0%	44,000	-6.0%	29,000	-6.7%
前田道路	240,000	2.3%	19,100	-7.9%	19,400	-8.0%	13,000	-22.4%
東亜建設工業	223,000	17.5%	9,000	3.3%	8,700	-5.9%	6,000	-12.5%
東洋建設	170,000	-1.7%	9,200	-35.5%	9,100	-35.5%	6,000	-34.6%
大豊建設	160,000	-1.1%	8,600	-5.1%	8,600	-8.7%	5,600	-10.6%
日本道路	158,000	0.1%	8,800	-18.3%	9,000	-20.3%	6,000	-21.0%
飛鳥建設	132,000	12.5%	4,200	5.1%	3,800	3.4%	2,400	-2.1%
ピーエス三菱	109,700	-6.4%	4,900	-41.6%	4,800	-43.0%	3,400	-39.2%
川田テクノロジーズ	105,000	-9.1%	1,500	-73.0%	2,200	-72.7%	1,100	-82.6%
東亜道路工業	115,000	2.9%	6,000	-16.3%	6,000	-17.3%	4,000	-14.8%
合計	1,877,700	2.9%	113,300	-15.0%	115,600	-17.0%	76,500	-21.0%

\*「収益認識に関する会計基準」などを適用するため業績予想の対前期増減率を公表していないピーエス三菱、川田テクノロジーズについても単純計算で対前期増減率を記載している

#### <電気設備工事業>

#### ■ 10 社合計で売上高 1.4%減、純利益 11.7%増、通信設備工事業大手 3 社が好調

21 年 3 月期の決算は通信設備工事業の協和エクシオ、コムシスホールディングス、ミライトホールディングスの 3 社が第 5 世代基地局の特需を背景に増収増益となりましたが、電気設備工事業のきんでん、関電工、九電工、トーエネックの大手 4 社は新型コロナウイルス感染症拡大等の影響による民間設備投資の減少等を背景に減収減益となり、明暗が分かれました（図表⑤）。10 社合計では、売上高は前期比 1.4%減、営業利益は同 3.7%増、経常利益は同 4.3%増、純利益は同 11.7%増となり、通信設備工事業の好調が貢献して全体としては堅調な決算結果となっています。

【図表⑤ 電気設備工事業主要 10 社の 2021 年 3 月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
協和エクシオ	573,339	9.3%	36,623	17.8%	38,186	24.5%	24,192	55.0%	増収増益
コムシスホールディングス	563,252	0.4%	41,572	6.7%	42,941	7.2%	29,369	13.0%	増収増益
きんでん	556,273	-5.1%	42,948	-4.6%	44,794	-4.1%	32,356	-0.4%	減収減益
関電工	556,045	-9.8%	30,041	-13.4%	31,043	-12.7%	20,147	-10.5%	減収減益
ミライトホールディングス	463,744	5.1%	30,129	37.0%	31,739	36.8%	24,205	59.0%	増収増益
九電工	391,901	-8.6%	32,998	-8.4%	35,906	-7.1%	25,042	-4.6%	減収減益
トーエネック	215,677	-4.1%	15,509	16.5%	13,726	9.7%	8,832	-5.2%	減収減益
ユアテック	197,092	-2.8%	8,484	25.5%	9,172	25.0%	5,763	28.9%	減収増益
日本電設工業	195,695	-1.3%	14,188	-14.0%	15,390	-13.0%	9,546	-15.3%	減収減益
中電工	184,482	9.2%	9,482	13.8%	11,899	6.4%	8,119	69.3%	増収増益
合計	3,897,500	-1.4%	261,974	3.7%	274,796	4.3%	187,571	11.7%	減収増益

出所：各社の 2021 年 3 月期決算短信より作成

#### ■ 10 社合計で売上高予想は 0.3%減と堅調だが、純利益は 8.8%減と減益予想

22 年 3 月期の業績予想はコムシスホールディングス、ミライトホールディングスの通信設備工事業 2 社が増収のほか、九電工、トーエネック、ユアテック、中電工の電気設備工事業 4 社も増収としており、10 社合計で売上高は前期比 0.3%減と微減にとどまると予想されています（図表⑥）。一方、営業利益は同 4.9%減、経常利益は同 5.5%減、純利益は同 8.8%減と、厳しい市場環境の中での価格競争激化等を背景に利益率は低下するとの見方がされています。

【図表⑥ 電気・通信設備工事業主要 10 社の 2022 年 3 月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
協和エクシオ	560,000	-2.3%	37,000	1.0%	37,800	-1.0%	24,100	-0.4%
コムシスホールディングス	580,000	3.0%	43,000	3.4%	43,500	1.3%	29,000	-1.3%
きんでん	548,000	-1.5%	36,600	-14.8%	38,700	-13.6%	26,300	-18.7%
関電工	521,000	-6.3%	30,300	0.9%	31,300	0.8%	20,400	1.3%
ミライトホールディングス	470,000	1.3%	30,500	1.2%	32,000	0.8%	21,000	-13.2%
九電工	410,000	4.6%	35,000	6.1%	37,700	5.0%	25,500	1.8%
トーエネック	224,000	3.9%	12,500	-19.4%	11,000	-19.9%	7,200	-18.5%
ユアテック	220,000	11.6%	8,600	1.4%	9,000	-1.9%	5,600	-2.8%
日本電設工業	166,200	-15.1%	5,900	-58.4%	7,000	-54.5%	4,800	-49.7%
中電工	188,000	1.9%	9,700	2.3%	11,700	-1.7%	7,100	-12.6%
合計	3,887,200	-0.3%	249,100	-4.9%	259,700	-5.5%	171,000	-8.8%

\*「収益認識に関する会計基準」などを適用するため業績予想の対前期増減率を公表していない関電工についても単純計算で対前期増減率を記載している

### <管工事業>

#### ■ 10 社すべてが減収、10 社合計で売上高 12.2%減、純利益 16.4%減の厳しい決算

21 年 3 月期の決算は 10 社すべてが減収、うち 9 社が減収減益となりました（図表⑦）。10 社合計も売上高が前期比 12.2%減、営業利益は同 23.1%減、経常利益は同 20.8%減、純利益は同 16.4%減となり、非常に厳しい決算となっています。

【図表⑦ 管工事業主要 10 社の 2021 年 3 月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
高砂熱学工業	275,181	-14.2%	12,300	-31.3%	13,902	-27.9%	10,116	-23.5%	減収減益
大気社	202,548	-10.1%	11,690	-24.3%	12,287	-23.2%	8,279	-9.3%	減収減益
三機工業	190,067	-8.5%	7,498	-29.7%	8,196	-27.0%	5,901	-22.1%	減収減益
ダイダン	157,712	-6.8%	8,754	-3.4%	9,262	-0.2%	6,318	-1.3%	減収減益
新日本空調	107,253	-10.7%	6,386	-0.4%	6,676	-2.0%	4,637	0.7%	減収増益
日比谷総合設備	73,119	-3.7%	3,997	8.3%	4,595	8.4%	3,075	-13.1%	減収減益
朝日工業社	70,435	-32.3%	2,235	-39.0%	2,486	-36.0%	1,821	-21.5%	減収減益
テクノ菱和	54,871	-9.9%	1,709	-59.9%	2,128	-52.7%	1,234	-57.8%	減収減益
大成温調	48,633	-16.3%	1,302	-30.7%	1,447	-32.1%	1,139	-22.9%	減収減益
ヤマト	43,767	-15.0%	3,081	-15.3%	3,369	-12.4%	2,288	-4.6%	減収減益
合計	1,223,586	-12.2%	58,952	-23.1%	64,348	-20.8%	44,808	-16.4%	減収減益

出所：各社の 2021 年 3 月期決算短信より作成

#### ■ 10 社合計で売上高予想は 6.5%増、純利益は 0, 6%減と堅調な業績を予想

22 年 3 月期の業績予想は 9 社が増収、うち 4 社が増収増益としています。10 社合計では、売上高が前期比 6.5%増、営業利益は同 3.4%増、経常利益は同 1.5%増、純利益は同 0.6%減となっており、売上高については落ち込みが激しかった今期を上回るとの見方がされています。

【図表⑧】 管工事業主要 10 社の 2022 年 3 月期（連結）の業績予想

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
高砂熱学工業	300,000	9.0%	13,800	12.2%	15,000	7.9%	11,000	8.7%
大気社	218,000	7.6%	12,700	8.6%	13,500	9.9%	8,400	1.5%
三機工業	200,000	5.2%	9,500	26.7%	10,000	22.0%	7,000	18.6%
ダイダン	168,000	6.5%	7,500	-14.3%	7,700	-16.9%	5,200	-17.7%
新日本空調	110,000	2.6%	6,000	-6.0%	6,300	-5.6%	4,400	-5.1%
日比谷総合設備	77,000	5.3%	4,000	0.1%	4,500	-2.1%	3,000	-2.5%
朝日工業社	78,200	11.0%	1,850	-17.2%	2,060	-17.2%	1,350	-25.9%
テクノ菱和	58,000	5.7%	2,100	22.9%	2,300	8.0%	1,500	21.5%
大成温調	50,500	3.8%	550	-57.8%	730	-49.6%	510	-55.2%
ヤマト	43,500	-0.6%	2,930	-4.9%	3,230	-4.1%	2,180	-4.7%
合計	1,303,200	6.5%	60,930	3.4%	65,320	1.5%	44,540	-0.6%

<プラント・エンジニアリング業>

■ 10 社合計で売上高 6.3%減、純利益 10.4%減と厳しい決算となるも環境関連企業は増収増益

21 年 3 月期の決算は千代田化工建設と東洋エンジニアリングが大幅な減収減益となり、10 社合計でも売上高が前期比 6.3%減、営業利益は同 9.4%減、経常利益は同 1.1%減、純利益は同 10.4%減と厳しい決算となりました（図表⑨）。ただし、水処理プラント等の環境関連プラントを中心に事業展開する栗田工業、メタウォーター、タクマの 3 社は増収増益となっており、得意分野によって明暗が出ています。

【図表⑨】 プラント・エンジニアリング業主要 10 社の 2021 年 3 月期（連結）の実績

企業名	2021年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	
日揮	433,970	-9.7%	22,880	13.1%	25,506	14.0%	5,141	24.9%	減収増益
千代田化工建設	315,393	-18.3%	7,015	-73.8%	8,462	-54.6%	7,993	-34.4%	減収減益
栗田工業	267,749	1.1%	31,529	14.7%	29,150	9.2%	19,088	4.4%	増収増益
東洋エンジニアリング	184,000	-16.0%	1,615	-14.6%	2,781	12.7%	814	-51.0%	減収減益
タクマ	146,726	9.1%	10,473	9.1%	11,028	7.1%	7,529	1.1%	増収増益
レイズネクスト	145,914	3.8%	10,386	3.4%	10,657	4.1%	7,344	-40.1%	増収減益
メタウォーター	133,355	3.6%	10,863	32.1%	11,053	35.9%	6,542	15.2%	増収増益
太平電業	127,779	7.0%	7,400	-21.7%	8,329	-13.1%	5,613	-9.3%	増収減益
富士古河E&C	74,168	-9.5%	5,916	-0.2%	5,920	1.9%	3,902	6.1%	減収増益
田辺工業	38,123	1.1%	2,653	1.1%	2,742	2.1%	1,754	-6.7%	増収減益
合計	1,867,177	-6.3%	110,730	-9.4%	115,628	-1.1%	65,720	-10.4%	減収減益

出所：各社の 2021 年 3 月期決算短信より作成

■ 10 社合計で売上高 3.8%増、純利益 8.6%増と好調な業績を予想

22 年 3 月期の業績予想は 10 社合計で売上高が前期比 3.8%増となりました（図表⑩）。営業利益は同 6.5%減、経常利益は同 8.0%減と減少ですが純利益は同 8.6%増となり、堅調な業績が予想されています。今期は非常に厳しい決算であった東洋エンジニアリングが大幅な増収増益に転じ、今期好調であった栗田工業は引き続き増収増益の予想となっています。

【図表⑩ プラント・エンジニアリング主要 10 社の 2022 年 3 月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
日揮	470,000	8.3%	16,000	-30.1%	19,000	-25.5%	13,000	152.9%
千代田化工建設	300,000	-4.9%	11,000	56.8%	9,000	6.4%	6,000	24.9%
栗田工業	276,000	3.1%	32,000	1.5%	31,300	7.4%	21,100	10.5%
東洋エンジニアリング	240,000	30.4%	2,500	54.7%	2,500	-10.1%	1,500	84.1%
タクマ	137,000	-6.6%	10,400	-0.7%	11,000	-0.3%	7,600	0.9%
レイズネクスト	133,000	-8.9%	7,800	-24.9%	8,000	-24.9%	5,150	-29.9%
メタウォーター	135,000	1.2%	8,500	-21.8%	8,500	-23.1%	5,800	-11.3%
太平電業	127,000	-0.6%	7,000	-5.4%	8,800	5.7%	5,700	1.5%
富士古河E&C	82,000	10.6%	6,000	1.4%	5,980	1.0%	3,950	1.2%
田辺工業	39,000	2.3%	2,300	-13.3%	2,350	-14.3%	1,600	-8.8%
合計	1,939,000	3.8%	103,500	-6.5%	106,430	-8.0%	71,400	8.6%

\*「収益認識に関する会計基準」などを適用するため業績予想の対前期増減率を公表していない日揮についても単純計算で対前期増減率を記載している

### <住宅・不動産業>

#### ■ 8 社が減収、6 社が減収減益、10 社合計で売上高 4.2%減、純利益 13.1%減の厳しい決算売

21 年 3 月期の決算は 8 社が減収、うち 6 社が減収減益となりました（図表⑪）。10 社合計でも売上高が前期比 4.2%減、営業利益は同 10.6%減、経常利益は同 11.8%減、純利益は同 13.1%減と厳しい決算となっています。増収増益は飯田グループホールディングスのみでした。

【図表⑪ 住宅・不動産業主要 10 社の 2021 年 3 月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	
大和ハウス工業	4,126,769	-5.8%	357,121	-6.3%	337,830	-8.1%	195,076	-16.5%	減収減益
三井不動産	2,007,554	5.3%	203,770	-27.4%	168,865	-34.7%	129,576	-29.6%	増収減益
大東建託	1,488,915	-6.1%	86,738	-32.2%	90,607	-31.9%	62,285	-31.1%	減収減益
飯田グループホールディングス	1,456,199	3.9%	121,263	45.2%	119,685	51.9%	83,316	55.0%	増収増益
三菱地所	1,207,594	-7.3%	224,394	-6.8%	210,965	-3.9%	135,655	-8.6%	減収減益
積水化学工業	1,056,560	-6.4%	67,300	-23.5%	62,649	-28.2%	41,544	-29.8%	減収減益
住友不動産	917,472	-9.5%	219,244	-6.4%	209,949	-4.8%	141,389	0.3%	減収増益
野村不動産ホールディングス	580,660	-14.2%	76,333	-6.8%	65,965	-9.7%	42,198	-13.7%	減収減益
スターツコーポレーション	198,963	-4.8%	22,068	-7.7%	23,323	-3.3%	15,599	3.6%	減収増益
タカラレーベン	148,397	-11.9%	10,789	-9.3%	9,933	-11.3%	4,693	-12.5%	減収減益
合計	13,189,083	-4.2%	1,389,020	-10.6%	1,299,771	-11.8%	851,331	-13.1%	減収減益

出所：各社の 2021 年 3 月期決算短信より作成

#### ■ 10 社合計で売上高 5.4%増、純利益 11.3%増と好調な業績を予想

22 年 3 月期の業績予想は 10 社中 9 社が増収増益となっています（図表⑫）。10 社合計で売上高が前期比 5.4%増、営業利益は同 3.6%増、経常利益は同 5.5%増、純利益は同 11.3%増であり、売上、利益ともに好調な業績を予想しています。住宅市場は人口減少を背景に基本的に縮小傾向だと考えられますが、低金利体制の継続、住宅ローン減税の再延長等の政府による住宅取得支援策等を背景に、需要は底堅いという見方がされているようです。

【図表⑫ 住宅・不動産業主要 10 社の 2022 年 3 月期（連結）の業績予想】

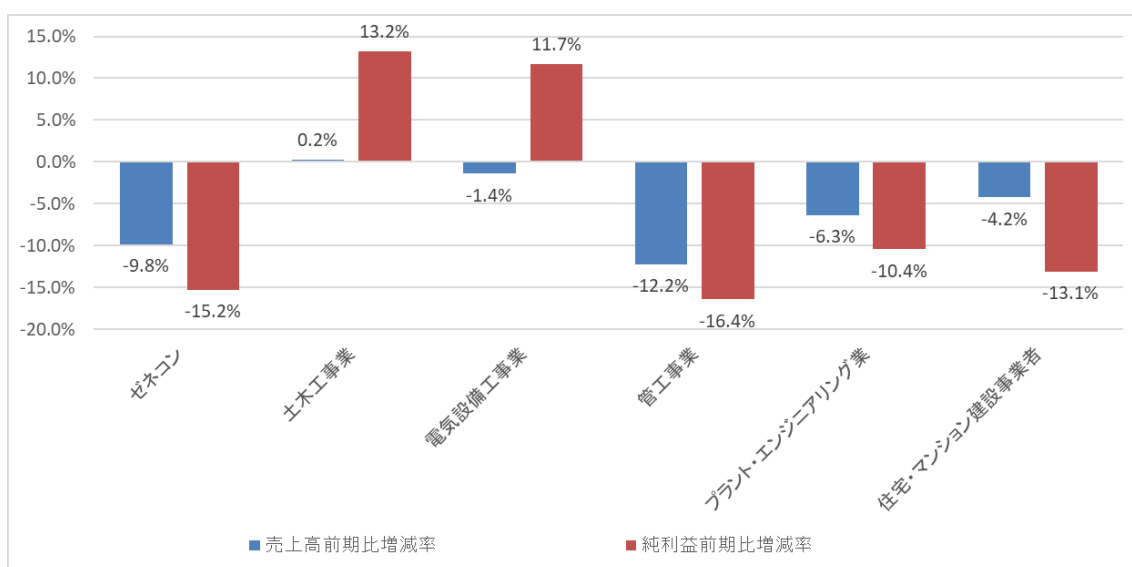
企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益(百 万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
大和ハウス工業	4,300,000	4.2%	320,000	-10.4%	316,000	-6.5%	215,000	10.2%
三井不動産	2,150,000	7.1%	230,000	12.9%	205,000	21.4%	160,000	23.5%
大東建託	1,570,000	5.4%	94,000	8.4%	97,000	7.1%	65,000	4.4%
飯田グループホールディングス	1,470,000	0.9%	128,000	5.6%	125,000	4.4%	86,000	3.2%
三菱地所	1,326,000	9.8%	245,000	9.2%	220,000	4.3%	142,000	4.7%
積水化学工業	1,132,600	7.2%	86,000	27.8%	86,000	37.3%	60,000	44.4%
住友不動産	920,000	0.3%	228,000	4.0%	221,000	5.3%	150,000	6.1%
野村不動産ホールディングス	680,000	17.1%	77,000	0.9%	72,500	9.9%	49,500	17.3%
スターツコーポレーション	195,000	-2.0%	22,500	2.0%	22,300	-4.4%	15,200	-2.6%
タカラレーベン	158,600	6.9%	7,900	-26.8%	7,100	-28.5%	4,800	2.3%
合計	13,902,200	5.4%	1,438,400	3.6%	1,371,900	5.5%	947,500	11.3%

\*「収益認識に関する会計基準」などを適用するため業績予想の対前期増減率を公表していないスターツコーポレーション、タカラレーベンについても単純計算で対前期増減率を記載している

## ■まとめ

各業種主要 10 社合計の売上高と純利益の前期比を見ると、6 業種中 5 業種で売上高は前期割れ、うちゼネコン、管工事業、プラント・エンジニアリング業、住宅・不動産業は純利益も前期割れとなっており、建設関連業界にとって 21 年 3 月期は厳しい経営環境にあったことが分かります（図表⑬）。その中で土木工事業のみが売上高が前期比 0.2%増、純利益は同 13.2%増と好調でした。この背景には、民間建設需要が新型コロナウイルス感染症拡大の影響等から減少する中、国土強靱化計画等の推進による公共の土木工事が底堅く推移したことが考えられます。また、電気・通信設備工事業も売上高は 1.4%減と微減ながら純利益は 11.7%増となっていますが、これは前述のように通信設備工事業の大手 3 社の貢献によるものです。

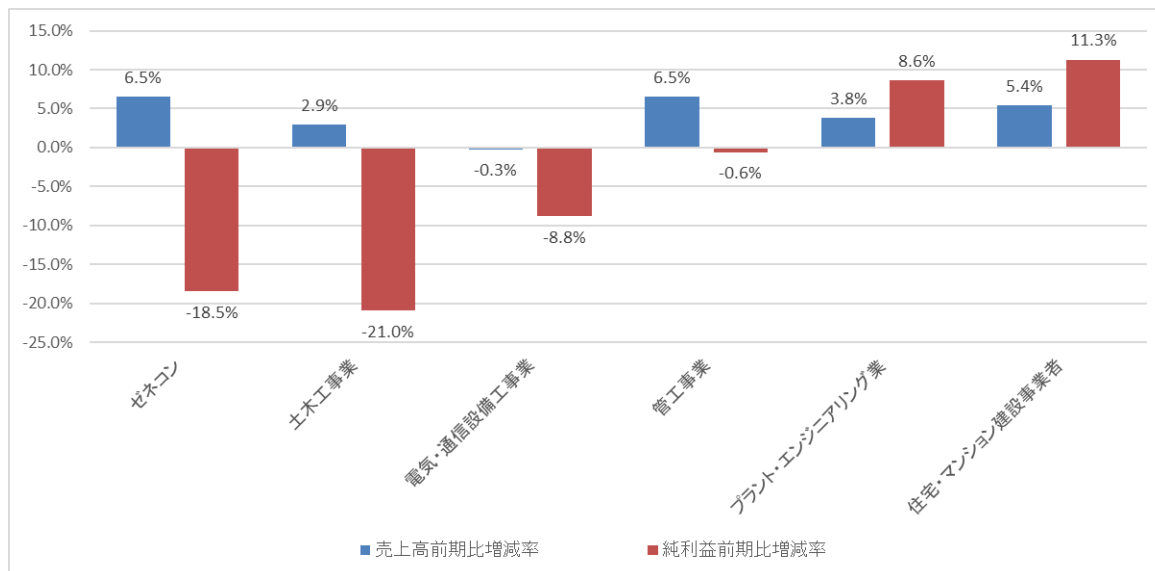
【図表⑬ 2021 年 3 月期決算 主要 10 社合計の前期比増減率】



次に、主要 10 社の 22 年 3 月期の業績予想について見ると、5 業種で売上高は前期を上回っており、新型コロナウイルス感染症が再拡大するなかで不透明な要素を抱えながらも、建設需要は底堅いとみられているようです（図表⑭）。特にプラント・エンジ

エンジニアリング業は売上高が 3.8%増、純利益が 8.6%増、住宅・不動産業は売上高が 5.4%増、純利益が 11.3%と好調な業績予想となっています。ただし、純利益はゼネコン、土木工事業で大幅に前期を下回るなど 4 業種で前期割れとなっており、厳しい受注環境の中で利益率の低下が予想されています。

【図表⑭ 2022年3月期業績予想 主要10社合計の前期比増減率】



＜このレポートに関するお問い合わせ＞  
 ヒューマンリソシア株式会社 建設 HR 編集部  
 E-mail : hrsouken@athuman.com